

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 26 年 2 月 20 日 (2014.2.20)

【公開番号】特開 2013-225150 (P2013-225150A)

【公開日】平成 25 年 10 月 31 日 (2013.10.31)

【年通号数】公開・登録公報 2013-060

【出願番号】特願 2013-142991 (P2013-142991)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

G 0 2 F 1/13363 (2006.01)

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/30

G 0 2 F 1/1335

G 0 2 F 1/13363

C 0 8 J 5/18 C E P

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 12 月 27 日 (2013.12.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

膜厚 20 ~ 60 μm であり、下記式 (1) ~ (3) を満たし、
溶液製膜方法によって製造されたことを特徴とする光学フィルム。

式 (1) $PV(\text{全面}) = 0.5 \mu\text{m}$

式 (2) $2.5 > PV(MD) / PV(TD) \geq 0.8$

(式 (1) および (2) 中、フィルム搬送方向にそれぞれ中心が 60 mm ずつ離れた直径 60 mm の円形領域 10 ヶ所で干渉膜厚計により膜厚を測定した場合において、 $PV(\text{全面})$ は各円形領域内のすべての点における膜厚の最大値と最小値の差分である全面 PV 値の 10 ヶ所の平均値を表し、 $PV(MD)$ は各円形領域内のフィルム搬送方向の直径上のすべての点における膜厚の最大値と最小値の差分である長手 PV 値の 10 ヶ所の平均値を表し、 $PV(TD)$ は各円形領域内のフィルム搬送方向に直交する方向の直径上のすべての点における膜厚の最大値と最小値の差分である幅手 PV 値の 10 ヶ所の平均値を表す。)

式 (3) $Re(30 - 80) < 3 \text{ nm}$

(式 (3) 中、 $Re(30 - 80)$ は、波長 590 nm で測定した、相対湿度 30 % におけるフィルム面内方向のレターデーションの値 $Re(30\%)$ と、相対湿度 80 % におけるフィルム面内方向のレターデーションの値 $Re(80\%)$ の差の絶対値を表す。)

【請求項 2】

下記式 (4) を満たすことを特徴とする請求項 1 に記載の光学フィルム。

式 (4) $1.8 > PV(MD) / PV(TD) \geq 0.8$

(式 (4) 中、フィルム搬送方向にそれぞれ中心が 60 mm ずつ離れた直径 60 mm の円形領域 10 ヶ所で干渉膜厚計により膜厚を測定した場合において、 $PV(MD)$ は各円形領域内のフィルム搬送方向の直径上のすべての点における膜厚の最大値と最小値の差分で

ある長手 P V 値の 10ヶ所の平均値を表し、P V (T D) は各円形領域内のフィルム搬送方向に直交する方向の直径上のすべての点における膜厚の最大値と最小値の差分である幅手 P V 値の 10ヶ所の平均値を表す。)

【請求項 3】

膜厚が 25 ~ 45 μm であることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の光学フィルム。

【請求項 4】

波長 590 nm で測定した面内方向のレターデーション R e が $0\text{ nm} < |R e| < 5\text{ nm}$ であることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の光学フィルム。

【請求項 5】

セルロースアシレートを含むことを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の光学フィルム。

【請求項 6】

偏光子と、該偏光子の少なくとも片側に請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の光学フィルムを有することを特徴とする偏光板。

【請求項 7】

請求項 6 に記載の偏光板を少なくとも 1 枚含むことを特徴とする液晶表示装置。